

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察特殊報について

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号を発表したので送付します。

平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

- 1 害 虫 名 : ミカンキイロアザミウマ
- 2 学 名 : *Frankliniella occidentalis* (Pergande)
- 3 発 生 地 域 : 沖縄本島
- 4 発 生 作 物 : ウリ科 (キュウリ、スイカ)、キク科 (シネラリア)、
ゴマノハグサ科 (ネメシア)

5 発生確認の経緯

平成 30 年 2 月に名護市の施設栽培のキュウリの葉を加害するアザミウマが採集された。農林水産省那覇植物防疫事務所に同定を依頼した結果、本県未発生のみカンキイロアザミウマであることが明らかとなった (図 1)。その後、現地調査を行ったところ、新たに名護市及び南風原町の栽培施設 3 か所で発生が確認された。本県では、平成 11 年 (1999 年) 及び平成 14 年 (2002 年) に発生したがそれぞれすぐに終息した。国内では、沖縄県を除く全都道府県で発生が確認されている。

6 被害

本種による直接の被害は成虫及び幼虫の吸汁による被害である。吸汁されると、被害部に変色や奇形が生じる。

特に、野菜類ではトマト幼果の白ぶくれ症状を引き起こし、葉に寄生するとかすり症状及び白斑を生じさせる。キュウリの葉では、ミナミキイロアザミウマより明らかに大きな 5mm 程度の白斑を生じさせる (図 2)。果樹では吸汁によりハウスミカンの果実表面が白いかすり状となる。花き類では、開花後に加害されると暗色花卉には白色条が、明色花卉には褐色条が生じ、商品価値がなくなる (図 3)。

また、本種はトマト黄化えそウイルス (TSWV)、インパチェンスえそ斑点ウイルス (INSV) 及びキク茎えそウイルス (CSNV) の主な媒介虫である。

7 形態及び生態

- (1) 形態：雌成虫 (図 5) は、体長約 1.5mm。体色は明黄色～褐色と変異が大きく、腹部に褐色斑を伴う黄色型もある。低温条件下で褐色型が多くなる。雄成虫は、体長約 1.1mm で明黄色のみ。
- (2) 生態：卵は葉や花卉などの組織内に 1 個ずつ産みつけられる。1 雌成虫当たりの産卵数は 150～300 個。幼虫は花卉、新葉などに生息し、これらを吸汁加害する。2 齢を経過した後、地表に移動し、土中や、落葉中で蛹化する。成虫になると再び花卉、新芽、新葉に移動し、加害する。発育期間は、キクでは 15℃で約 34 日、20℃で約 19 日、25℃で約 12 日及び 30℃で約 9.5 日。成虫の寿命は 37～99 日ある。発育零点は 9.5℃。
- (3) 寄主植物：本種の寄主範囲は極めて広く、主な寄主植物は以下のとおりである。
- ・野菜類：イチゴ、アスパラガス、キャベツ、レタス、トマト、ピーマン、メロン、キュウリ、ナス、ホウレンソウなど。
 - ・果樹類：ミカン (ハウス)、ブドウ、リンゴ、ネクタリン、モモ、プラムなど。

- ・花き類：キク、ガーベラ、バラ、トルコギキョウ、カーネーション、アイリス、シクラメン、インパチェンス、ゼラニウム、ヤグルマソウなど多数。

8 防除対策

- (1) 施設では出入口や側窓を 0.6mm 以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、葉への被害が無いかよく観察し、早期発見・防除に努める。
- (3) ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため開花前に除去する。特に、本種は花粉の摂食により増殖力が増すことから、アワユキセンダングサ（図4）などの雑草の開花前に除草するよう留意する。
- (4) 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- (5) 栽培終了後のほ場が発生源にならないよう、すみやかに残渣処理を行う。
- (6) 本種が発生した施設ほ場では、栽培終了後、本種の分散を防ぐため、蒸し込み処理を行う。



図1 ミカンキイロアザミウマ



図2 キュウリの葉の白斑状の被害



図3 花のかすり症状の被害 (左から、シネラリア、小ギク、輪ギク)

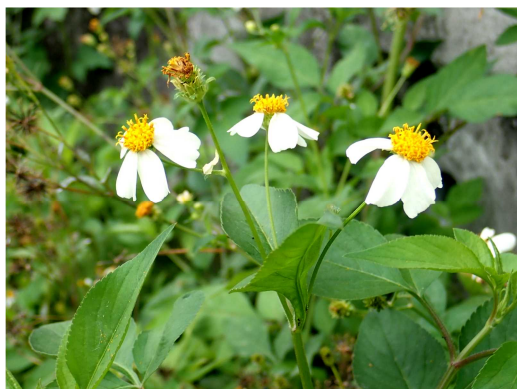


図4 アワユキセンダングサ

9 他種との見分け方

本種は前胸背板に5対の長い刺毛を持ち(図6)、前翅前脈の刺毛列は途切れることなく一様である(図8)点で *Frankliniella* 属以外と区別ができる。さらに、複眼後方刺毛が顕著に長く(図6)、後胸背楯板の後方に鐘状感覚器があることで(図9)、同属のヒラズハナアザミウマ、カホンカハナアザミウマと見分けることができる。また、触角第2節の背面先端部は突出せず(図7)、先端2本の刺毛も特には太くならないことと、腹部第8背板後縁の櫛歯状突起が中央部で途切れないこと(図10)から、センダングサアザミウマと識別できる。



図5 雌成虫

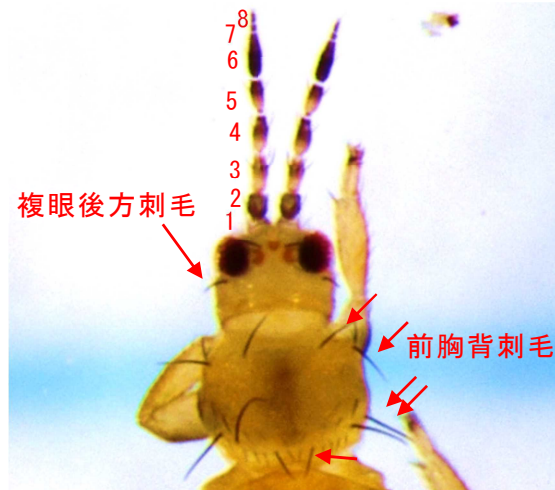


図6 頭部～胸部



図7 触角基部

(左：ミカンキイロアザミウマ；右：センダングサアザミウマ)



図8 前翅前脈の刺毛

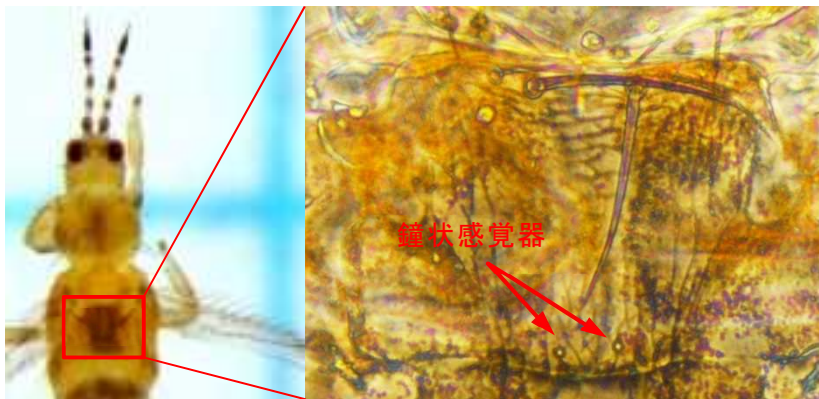


図9 後胸背楯板 後縁中央部の鐘状感覚器

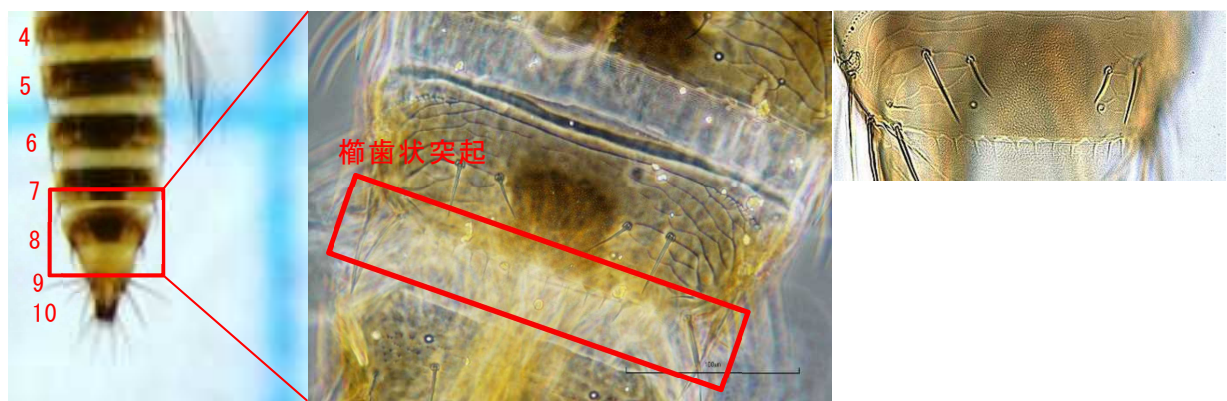


図10 腹部第8背板 後縁部の櫛歯状突起

10 参考文献

- ・早瀬猛・福田寛(1991) ミカンキイロアザミウマの発生と見分け方. 植物防疫 45 : 59-61
- ・梶本雅身・岡島秀治(2004) 南西諸島から新たに発見された *Frankliniella cephalica*(Crawford) (アザミウマ目, アザミウマ科). 応動昆 48 : 225-226.

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>